

一般社団法人日本サンゴ礁学会  
2019/20 年度 代議員総会 議事録

1. 日時： 2019年11月8日金曜日 14時00分ー16時40分
2. 場所： 北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」大会議室
3. 出席役員： (理事) 日高 道雄, 藤田 和彦, 梅澤 有, 山野 博哉, 茅根 創, (監事) 鹿熊 信一郎, 野中 正法

4. 議事の経過の要領及びその結果

(1) 議長および議事録作成者の選出

互選により、議長に中村 隆志氏を、議事録作成者に久保田 賢氏を選出した

(2) 議決権総数の確認と議事の開始

出席代議員

議決権のある総代議員数	24名
出席代議員数	21名
委任状提出者数	3名
議決権総数	24名

以上のとおり、出席社員数が定足数に至ったことから、議長は開会を宣言し、下記のとおり議事に入った。

(3) 第1号議案 2018/19年度事業報告(案)について

議長は、日高 道雄 会長に本件についての説明を求めた。会長は、定款細則、賞委員会規程、学会各賞の授賞者、会長候補者・代議員選挙結果、代議員総会申し合わせ案作成および著作権規程の策定に関する詳細な報告に続き、実施事業について資料に基づき説明した。鹿熊監事より、10月13日に実施した事業監査の結果、適正であることが報告された。その後以下のような質疑応答が行われ、承認された。

○著作権規程に関する質疑応答

(中野代議員) 共著者全員の同意を取るの容易ではないのではないか。

(井龍代議員・藤田理事) 他の雑誌の Web 投稿システムなどでは、投稿決定が

タンを押すために、共著者による同意が不可欠である。「著作権に関する譲渡証書」の第2項で著作財産権の譲渡に関して共著者の同意に関する項目が記載されており、同意した上で責任著者が署名することから、問題が生じても本会の責任ではないことになる（同証書第4項にその旨明記）。

（熊谷代議員）写真・イラストは、著者以外から借りたものであったり、特に再利用の希望が多いと思われるが、厳しい制約はあるのか。

（藤田理事）：投稿規程と著作権規程第6条に記載されているとおり、投稿前に著者の責任で転載の許可を取っておく必要がある。掲載後の出版物への利用は、著者に転載申請をしてもらう必要があるが、著者からの申請は基本許諾するので問題ないと考えられる。

（鈴木（利）代議員）：掲載論文のWeb掲載の可否について教えて欲しい。

（藤田理事）：最終のPDF版のWeb掲載は不可だが、機関レポジトリ等において審査に用いた受理版のWeb掲載なら問題はない。

（佐藤代議員）：過去の論文へも遡及するのか？

（藤田理事）：基本遡及しない方針だが、今後、過去の論文への転載申請があれば、その論文に対してのみ、著者に著作権等譲渡証書を提出してもらう予定。弁理士にも確認する。

#### ○2018/19年度事業報告案に関する質疑応答

（中野代議員）：受託事業の委託元を教えて欲しい。

（久保田事務局長）：国立環境研究所である。

（佐藤代議員）：検討課題に挙がっているIPCESとAPCRSとの関係の調整はどうなっているのか。

（日高会長）：サンゴを主な対象とするAPCRSと異なり、IPCESは生物多様性と対象が異なるものと理解している。欠席している灘岡理事からの情報では、現時点でICRSアジア太平洋支部立ち上げは現時点では難しい状況である。一方、ICRSの会長などから支部設立に対する期待が寄せられていることもあり、今後も検討は必要と思われる。

（深見代議員）：会長候補者および代議員選挙のインターネット投票について

は検討していないのか。

(茅根理事)：検討したが、2018/19年度の導入は困難と判断した。次回以降の検討は必要と考えている。

(深見代議員)：国際的な組織の支部を設立している議論がなされているようだが、天草臨海実験所を中心に生物多様性に特化した国際連携の組織が設立され、活動実績もあるのでそのような他の取り組みを注視する必要があるのではないか。

(佐藤代議員)：膠着していた APCRS との連携について、従来とは異なる会員がアプローチすることになっていたが、その取り組みはどのようになっているのか。

(日高会長)：特にこの点については、進んでいない。

(中村(崇)代議員)；木村会員が APCRS の設立時から関わっていること、そろそろ後進にその役割を譲ろうと考えていることを発言していることなどから、そのルートで検討する手もあるのではないか。

#### (4) 第2号議案 2018/19年度決算(案)について

議長は、日高 道雄 会長に本件についての説明を求め、会長は久保田 賢 事務局長に本件について依頼した。鹿熊監事より、10月13日に実施した会計監査の結果、適正であることが報告された。特に質問はなく、満場一致をもって原案は承認された。

#### (5) 第3号議案 理事・監事の選任について

議長は、茅根 創 庶務・会計担当理事に本件についての説明を求めた。理事は、資料に基づき6名の理事(日高道雄、藤田和彦、梅澤有、灘岡和夫、山野博哉、茅根創)および2名の監事(鹿熊 信一郎、野中 正法)の任期満了に伴う退任の報告後、6名の理事候補者(井龍 康文、梅澤 有、栗原 晴子、中野 義勝、藤田和彦、山野 博哉)ならびに2名の監事候補者(鹿熊 信一郎、野中 正法)の選任について個別に提案し、それぞれ承認された。

その後、新理事および監事の互選により、山野博哉理事が会長として選出された。また、各業務担当については、以下のとおりとなった。

藤田 和彦：学会誌担当

梅澤 有：広報・社会連携担当

井龍 康文：学会戦略・国際担当

中野 義勝：サンゴ礁保全・調査安全担当

栗原 晴子：庶務・会計担当

(6) 第4号議案 2019/20年度事業計画（案）について

議長は、山野 博哉 会長に本件についての説明を求めた。会長は、資料に基づき説明し、その後以下のような質疑応答が行われ、承認された。

(佐藤代議員)：5(2)第4項の IPCRS に関する検討について、学会が主体的な立場として関わっていくのか。

(井龍理事)：今後2年間の理事会運営では、学会にリターンがあるかを主な判断材料として、各事業の要否を判断していくことになる。本事業も同様な観点で検討する予定である。

(樋口代議員)：国際学会への参加支援については、何人に対して補助するのか。設置ブースの担当者が必要なので教えてほしい。

(山野会長)：10万円×5名の予定である。

(梅澤理事)：補助をもらっていない学生にまでブース担当を依頼することは難しいので、ポスドク以上の有職者が担当するよう検討するべきである。

(Agostini 代議員)：外国会員へのサービスを考える上で、大会の要旨集等の英語化が考えられるが、どのように考えているか。

(波利井代議員)：希望者だけでも英語で題目と要約が記載できるようにしてはどうか。

(鹿熊代議員)：保全活動については、英語化するのが困難なケースが多いと想定されるので、誰かが代わりに翻訳するなど工夫が必要である。

(中村(隆)代議員)：どのように英語化を進めるかについては、インセンティブの与え方も含めて検討すべきである。学会要旨をオープンアクセスにするのであれば、国内外へ研究のアピールできるので要旨を英語化するメリットはある。今後、要旨の英語化を進めるとともにオープン

アクセス化してアーカイブしておけば、JCRS での発表の全体像を海外に示すことができる。

(中野理事)：タイトルやキーワードだけでもいいので、英文化するという方法もある。

(渡邊代議員)：英語セッションがその一つの取り組みであるかと思っただが、異分野の発表を単に英語で発表されるという理由だけでまとめることは適切でないと判断し、第 22 回大会は英語の発表をプログラム中で分散させることとした。

(Agostini 代議員) 研究者が潜水作業を行うのに必要な潜水士の資格試験が日本語しかない問題について、その後、どのような検討・対策がされているか？

(中野理事) 他の国家資格にも同じ対応が求められることとなるため、潜水士のみ英語の試験が実施されるようになる見込みはないが、国外で管理・運営されている同等の資格を持っていれば代用できるような仕組み作りについては検討が進んでいる。

#### (7) 第 5 号議案 2019/20 年度予算案について

議長は、山野 博哉 会長に本件についての説明を求め、会長は久保田 賢 事務局長に本件について依頼した。事務局長は資料に基づき説明し、特に質問はなく、満場一致をもって原案は承認された。なお、文言がずれていた摘要欄の修正が要請された。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長および議事録作成者が署名捺印する。

2019 年 11 月 8 日

一般社団法人 日本サンゴ礁学会 2019/20 年度 代議員総会

議長・議事録作成者 議長 中村 隆志 ⑩

議事録作成者 久保田 賢 ⑩